

令和5年度
事業報告書

学校法人 札幌青葉学園

目 次

I. 法人の概要

1. 名称・所在地	1
2. 建学の理念	1
3. 沿革	1
4. 設置する学校	2
5. 学生数	
(1) 入学定員・入学者数	2
(2) 入学者数の推移	3
6. 教職員数	3
7. 理事・監事・評議員	4
8. 組織	5

II. 事業の概要

1. 基本的な方針	6
2. 事業の実施状況	
(1) 札幌青葉鍼灸柔整専門学校	6
(2) 北海道歯科衛生士専門学校	8
(3) 北海道看護専門学校	10
3. 理事会・評議委員会の開催状況	13
4. 取得可能な称号	14
5. 学生生徒等納付金	14
6. 卒業及び就職等の状況	16
7. 国家試験の受験状況	16

III. 財務の概要

1. 学校法人会計基準	17
2. 各科目の説明	17
3. 財務運営	20
4. 事業活動収支計算書	21
5. 貸貸借表	22
6. 財産目録	23

I. 法人の概要

1 名称・所在地

名 称	学校法人 札幌青葉学園
理 事 長 名	岸野 雅方
所 在 地	〒060-0053 北海道札幌市中央区南3条東4丁目1-24
電 話 番 号	011-231-8989
認 可 年 月 日	平成15年12月8日 北海道知事認可（準学校法人）

2 建学の理念

学校法人札幌青葉学園は、2001（平成13）年に「はり師」「きゅう師」を養成する「札幌青葉鍼灸専門学院」を開設し、2003（平成15）年12月8日には準学校法人として認可され、法人名を「学校法人札幌青葉鍼灸学園」に、また学校名を「札幌青葉鍼灸専門学校」に変更しました。その後、2004（平成16）年4月には「柔道整復師」を養成する柔道整復学科を新たに設置しました。

2007（平成19）年4月には法人名を「学校法人札幌青葉学園」に、また学校名を「札幌青葉鍼灸柔整専門学校」に変更するとともに、「歯科衛生士」を養成する「北海道歯科衛生士専門学校」を開設しました。また、2012（平成24）年4月には「看護師」を養成する「北海道看護専門学校」を開設し、2020（令和2）年11月には、札幌青葉鍼灸柔整専門学校における日本語学科の設置が認可されました。

本学園では単に知識や技術だけでなく、豊かな人間性をも育めるような教育環境づくりに取り組み、学生と教職員との活発なコミュニケーションを保つことで、学生自身が主体的に学び・考え・行動する個性ある教育を推進し、社会に貢献できる医療人の育成を目指して努力してまいります。また日本語学科では、医療系の学校法人であるという特徴を生かし、特に北海道で不足している介護福祉士等の医療系資格を有する人材の育成に貢献したいと考えています。

3 沿革

2001(平成13)年 4月	厚生労働大臣からはり師・きゅう師養成施設として認定され、「札幌青葉鍼灸専門学院」として鍼灸学科昼間部（60名）を開設
2003(平成15)年 12月	北海道から準学校法人の認可を受け、併せて、「札幌青葉鍼灸専門学院」を「学校法人札幌青葉鍼灸学園札幌青葉鍼灸専門学校」に名称変更
2004(平成16)年 4月	厚生労働大臣から柔道整復師養成施設として指定され、柔道整復学科夜間部（30名）を設置するとともに、鍼灸学科夜間部（30名）を設置
2006(平成18)年 4月	柔道整復学科昼間部（60名）を設置するとともに、柔道整復学科夜間部を60名に増員
2007(平成19)年 4月	「学校法人札幌青葉鍼灸学園札幌青葉鍼灸専門学校」を「学校法人札幌青葉学園札幌青葉鍼灸柔整専門学校」に名称変更
2007(平成19)年 4月	「北海道歯科衛生士専門学校」を開設
2012(平成24)年 4月	「北海道看護専門学校」を開設
2020(令和2)年 11月	札幌青葉鍼灸柔整専門学校における日本語学科の設置認可

4 設置する学校

(令和6年5月1日現在)

学校名	学校長名	所在地・電話番号	認可年月日
札幌青葉鍼灸柔整専門学校 医療専門課程 柔道整復学科 鍼灸学科 文化・教養専門課程 日本語学科	岸野 庸平	〒060-0853 北海道札幌市中央区 南3条東4丁目1-24 TEL：011-231-8989	平成15年12月8日
北海道歯科衛生士専門学校 医療専門課程 歯科衛生士学科	吉田 重光	〒060-0042 北海道札幌市中央区 大通西19丁目1-6 TEL：011-640-6100	平成19年3月27日
北海道看護専門学校 医療専門課程 看護学科	田所 亮一	〒060-0062 北海道札幌市中央区 南2条西11丁目328-7 TEL：011-200-7100	平成24年3月7日

5 学生数

(1) 入学定員・入学者数等

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

(令和6年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	収容定員	収容現員	収容定員充足率
柔道整復学科 昼間1部	60	48	180	130	72.2%
鍼灸学科 昼間部1部	30	23	90	74	82.2%
鍼灸学科 昼間部2部	30	5	90	12	13.3%
日本語学科 進学1年コース	20	0	20	0	0.0%
日本語学科 進学1.5年コース	20	13	40	13	32.5%
日本語学科 進学2年コース	20	10	40	19	47.5%
合計	180	99	460	248	53.9%

※日本語学科進学1.5年コースは10月入学のため令和5年10月入学者を記載

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(令和6年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	収容定員	収容現員	収容定員充足率
歯科衛生士学科 昼間部	50	43	150	118	78.7%
歯科衛生士学科 夜間部	30	20	90	62	68.9%
合計	80	63	240	180	75.0%

◆ 北海道看護専門学校

(令和6年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	収容定員	収容現員	収容定員 充足率
看護学科	80	77	240	243	101.3%

(2) 入学者数の推移

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
柔道整復学科	45	38	42	48
鍼灸学科	40	30	36	28
日本語学科	1	26	11	23
合 計	86	94	89	99

※日本語学科の入学者には各年度とも10月入学の1.5年コースの入学者を含む

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
歯科衛生士学科	77	60	73	63

◆ 北海道看護専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
看護学科	84	84	76	77

6 教職員数

(令和6年5月1日現在、単位：名)

	専任		非常勤者等	
	教員	職員	教員	職員
法人本部	0	6	0	1
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	23	12	22	0
北海道歯科衛生士専門学校	12	6	55	1
北海道看護専門学校	23	6	65	0
合 計	58	30	142	2

◆ 理事・監事

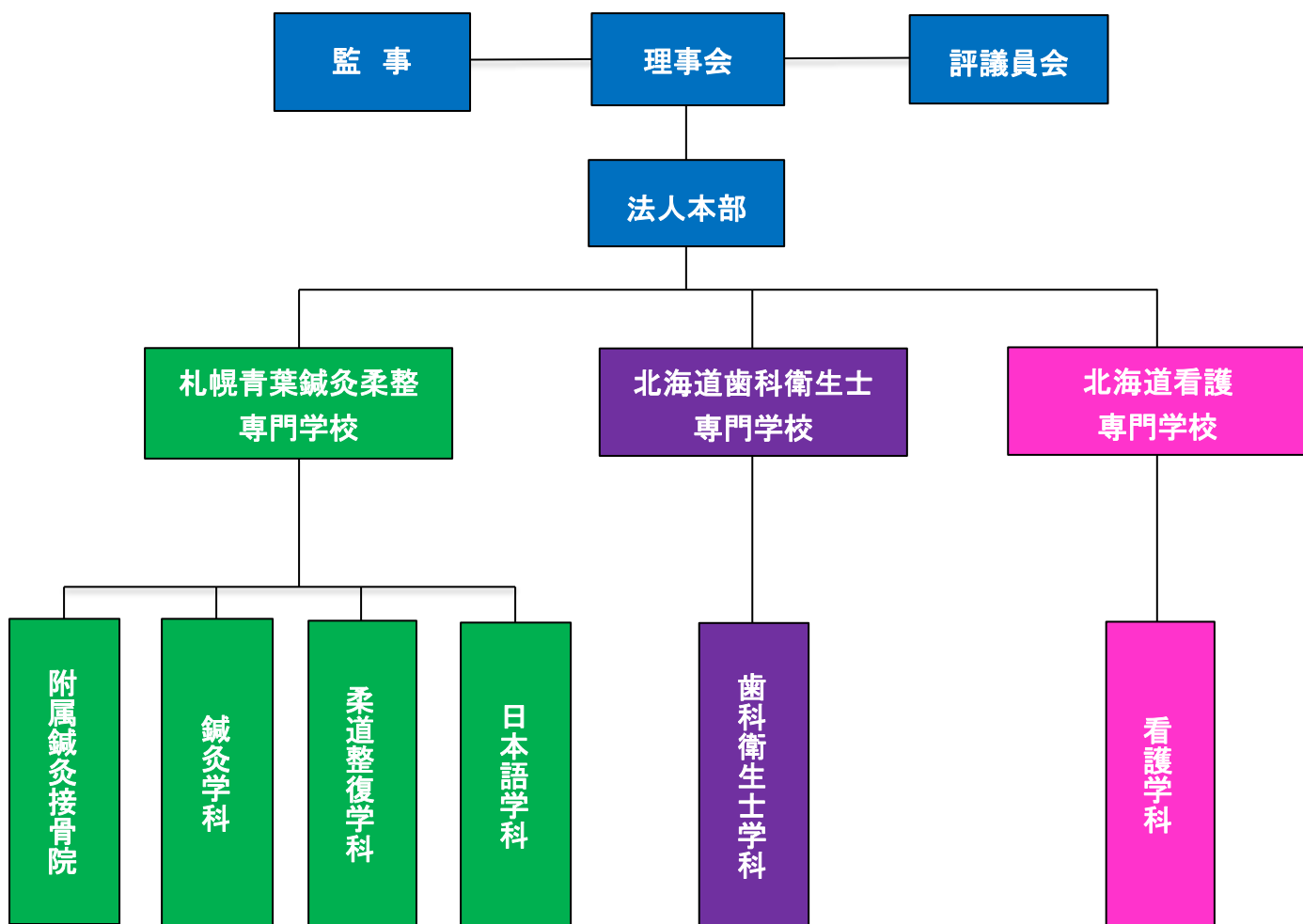
(令和6年5月1日現在)

	氏名	就(重)任年月	主な現職等
理事長	岸野 雅方	令和5年4月	公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人平成医療学園理事長 学校法人平成医療学園宝塚医療大学学長
常務理事	吉田 重光	令和5年4月	北海道歯科衛生士専門学校校長
理事	岸野 庸平	令和5年4月	札幌青葉鍼灸柔整専門学校校長
	田所 亮一	令和5年4月	北海道看護専門学校校長
	岩倉 淳	令和5年4月	札幌青葉鍼灸柔整専門学校・顧問
	小松 恵治	令和5年4月	北海道看護専門学校・統括長
	木野 達司	令和5年4月	学校法人平成医療学園理事
監事	岡田 光司	令和5年4月	学校法人平成医療学園理事
	田村 智幸	令和5年4月	弁護士
	樋爪 昌之	令和5年4月	公認会計士
定数	理事8人以上10人以内、監事2人		

◆ 評議員

(令和6年5月1日現在)

	氏名	就(重)任年月	氏名	就(重)任年月
評議員	岸野 雅方	令和5年4月	加藤 洋平	令和5年4月
	吉田 重光	令和5年4月	吉田 達也	令和5年4月
	岸野 庸平	令和5年4月	杉浦 透	令和5年4月
	田所 亮一	令和5年4月	片倉 弘隆	令和5年4月
	岩倉 淳	令和5年4月	及川佑季子	令和5年4月
	小松 恵治	令和5年4月	八木留利花	令和5年4月
	木野 達司	令和5年4月	山川 巳穂	令和5年4月
	岡田 光司	令和5年4月	三浦 健人	令和5年4月
	豊田 敏志	令和5年4月	吉田 真人	令和5年4月
定数	17人以上21人以内			



II. 事業の概要

1 基本的な方針

本学園は、教育研究体制の整備充実を図るとともに、教育内容のより一層の改善・充実や施設設備の整備等を行うことによって、多様な社会の要請に応える有為な人材の育成に努めます。また、少子高齢化の進展に伴う18歳人口の減少等の社会情勢の変化に的確に対応し、学園の円滑な運営を行い今後の更なる発展を期するために、入学者の確保や経営の効率化などにより財政基盤の着実な強化を図ります。

2 事業の実施状況

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

①入学者の確保

○鍼灸学科・柔道整復学科

令和6年度の入学生は76名で、内訳は鍼灸学科昼間1部が23名（定員30名：定員充足率76.7%）、鍼灸学科昼間2部が5名（定員30名：定員充足率16.7%）、柔道整復学科昼間1部が48名（定員60名：定員充足率80%）でした。

学生募集活動については、新型コロナウイルス感染症の分類が令和5年5月に5類となったことに伴い、オープンキャンパスを来校型のみの実施といたしました。

主なターゲットである高校生の入学者数は昨対比+6名となりましたが、うち5名は競合他校の募集停止に伴う本校への志望校変更によるものであり、募集活動の結果とはいえないのが実状です。

昨年度と同様、高校生の関心が高いスポーツ分野において、鍼灸・柔道整復学科をもつ競合校と比較すると突出した特色が作れておらず、本校の特色であった授業時間外に行なうゼミが、正規授業時間や教員数不足の問題などにより、あまり実施できていないこと等、競合校との差別化のアピールが難しいところが大きな課題となりました。

一方、本校の特色の一つである、はり師・きゅう師・柔道整復師のトリプルライセンス取得については、教員・広報職員が日常的に学生との対話を実施したことにより、既卒者の入学が昨対比+3名となりました。今後も継続して10名前後の獲得を目指します。

その他の一般社会人については、昨対比-11名と大幅減となりました。資料請求者数および来校者数は微減にもかかわらず入学者数が大きく減少したことは、社会人の進学における最重要事項である進学資金支援について有用な手立てがないことも要因の一つであり、雇用保険の専門実践教育訓練給付金制度の適用要件を満たすことが喫緊の課題となります。また、現状は資格に興味のある社会人からの接触を待つのみとなっており、こちらから積極的にアピールする手段を確立することも課題の一つです。

SNSの利用については、今年度よりLINE配信に重点を置き、ガイダンス着席者やオープンキャンパス参加者に友だち登録を促しております。また、主にInstagramに授業風景や学生の学校生活の様子を写真や動画で投稿することで、まだ本校を認知していない方にも情報を提供し、さらに本校へのより深い理解に進んでもらえるようオープンキャンパス開催の告知も行いました。

高校訪問は春・秋を中心に実施し、学校説明や進学検討者に関する情報を共有しました。本校卒業生が開業・勤務する治療院の訪問活動については、学校名入りのカレンダーを作成し年末に70件程度訪問を行いました。

○日本語学科

令和5年4月開講の2年コースの入学生は10名（モンゴル人1名、ネパール人7名、バングラディッシュ人1名、スリランカ人1名）、令和5年度10月開講の1.5年コースの入学生は13名（ネパール人6名、バングラディッシュ人3名、ミャンマー人3名、ベトナム人1名）でした。また、令和5年4月開講の1年コースについては志願者がいませんでした。

留学生募集活動については、昨年度と同様、外国現地の留学生紹介エージェントとZoomやSkypeを利用したオンライン上で綿密に連絡を取り合い、現地のエージェントを利用して留学希望者を募りました。また、札幌在住の外国人定住者より、自分の家族を留学させたいとの相談を受け、1名入学しました。

②教育の充実

○鍼灸学科・柔道整復学科

本校の特徴としている臨床教育については、「職業実践専門課程」の教育課程編成委員会の意見をもとに、関連業種の企業との連携を図り、本校卒業生やスポーツ関連企業から外部講師を招くことで、臨床現場の状況を伝え、卒業後に役立つ内容の授業を実施してきました。さらに、正規授業以外で実施している自由選択ゼミについては、将来の選択肢として、「福祉」や「美容」の分野でも活かせることを目標にした内容に加え、座学・実技・実習の理解度を深める内容も盛り込みました。

また、毎年実施している「学生による授業評価」をもとに、授業内容および実施方法などを見直すことで、教員の資質向上を図ってきました。

さらに、国家試験対策として3年生で実施してきた「寺子屋方式」の個別指導を、1年生からも実施することで、授業の予習や復習のみならず、勉強方法の指導や生活指導を行うことができました。

また、高校時代に勉強の習慣が全くないという者が多く、医療系の学習内容についてくることができなく退学してしまう学生が多かったことから、今後は個別指導の強化を図ることで、学生の学習面のみならず精神面においてもフォローしていきます。

○日本語学科

入国時期が異なるために、新入生の学習進度にばらつきが出てしまいました。そのための対策として、遅れて入国してきた学生には、授業に追いつくことができるように補習を実施しました。また授業内外を通して、卒業生25名の進路指導及び希望の進路に関わる日本語をきめ細かく指導したことにより、卒業生全員が希望する進路先につくことができました。

③国家試験対策の充実

国家試験の合格率について、新卒者の状況は、はり師国家試験、きゅう師国家試験ともに96.4%、柔道整復師国家試験は96.2%でした。はり師・きゅう師・柔道整復師すべてにおいて全道で最も高い合格率となりました。今回、高い合格率を出すことができたのは、1年次からの寺子屋形式による個別指導の成果もありますが、特に3年生に対しては、小グループ分けした寺子屋形式として可能な限り教員が入ることにより、各学生の学習状況に合わせた補習授業を行うことができたことが大きな要因と考えられます。

また既卒生の合格率について、新卒生と比較しても悪い結果となっています。既卒生に対する国家試験対策講義を行っておりますが、受講者が少なく、新卒生の指導に集中するあまり、教員の手が既卒生にまで回りにくいという現状もあり、講義回数に限りが出てしまいました。今後は補助教員による対応等を検討し合格率の向上に努めていきます。

④就職支援の充実

令和5年度は（株）セイリンと（株）セリアジョブ主催による合同企業説明会が行われました。各回とも道内、道外を問わず30社を超える企業が集まったことで多くの企業の説明を聞くことができ

たことから、学生にとっては貴重な説明会となりました。

学内においては進路担当教員を中心に個別相談や進路指導を行い、求人先と学生の双方が満足でき、就職先がミスマッチとならないよう就職活動を実施していきました。今後は特に道内企業を中心に強く説明会への参加を求めていきたいと考えています。

⑤施設設備の整備

建物については、引き続き防災設備、水道、電気系統の点検等を実施してきました。また、その他の校内設備については、故障等が発生したときには、迅速に修理・交換等を実施いたしました。

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

①入学者の確保

令和6年度の入学生は昼間部43名（定員50名、うち高校新卒者39名、社会人4名：定員充足率86.0%）、夜間部20名（定員30名、うち高校新卒者1名、社会人19名：定員充足率66.7%）の計63名（定員充足率78.8%）で、昼間部は前年度より10名減、夜間部は前年度と同数の結果となりました。

昼間部のメインターゲットは高校生です。昼間部の募集が前年度と比較して10名減となった要因としては、1つには（若干数ですが）前年度と比べてオープンキャンパス・個別相談の来校者数が減少したために、出願数が伸び悩んだ可能性が考えられます。また、AOエントリーで出願許可を出したのに出願しなかった者が5名、一般入試で出願したが受験しなかった受験辞退者が1名、それと合格後の辞退者が1名いました。すなわち、出願者（及び出願意志表明）50名のうち7名が未受験あるいは入学を辞退しました。本校としては、特にAOエントリーで出願許可を出したのに出願しなかった受験辞退者がいたのは初めてのことで、非常に重く受け止めています。

昼間部の募集においては、競合校との差別化として「即戦力となる歯科衛生士」を育成する教育理念のもとに、卒業後すぐに医療人・社会人としての必要な立ち振る舞いができる歯科衛生士となるため、充実した基礎実習・臨床実習・国会試験対策をはじめ、学校生活の中でマナー等もしっかり教育し、学生に対しきめ細やかな指導とサポートを行う方針を引き続き周知してきました。このような本校の特色については、ここ数年間の継続した広報活動により幅広く認知されるようになってきました。

令和6年度募集からは本格的に学校単位での広報活動が開始し、ホームページもリニューアル更新し、学校中心でオープンキャンパス等を中心に積極的な募集活動を行いました。細かいところまでフォローしきれず、外部への発信不足や来校者へのフォロー体制を徹底しきれなかったことで、出願（及び出願意志表明）までは結びつくものの、最終的に未受験者や入学辞退者を複数出してしまったのではないかと考えています。

これらの反省に立って、次年度の学生募集においてはオープンキャンパス等における接触者への対応をさらに緊密にするとともに、出願希望者の疑問や不安を解消する丁寧な説明を行うように、実施プログラムの内容を精査・改変することとしています。

一方、夜間部のメインのターゲットとなるのは社会人で、中でも歯科助手から歯科衛生士へのキャリアアップを目指す方が多いことから、歯科医院に対しては歯科医師特別推薦入試制度を設けていることをアピールした募集活動を実施しました。また、歯科助手以外の社会人については、北海道内唯一の歯科衛生士学科夜間部設置校であることや、学校独自の学納金減免・奨学金制度、専門実践教育訓練給付金制度が利用可能なこと等を周知させる募集活動を行ったことで、前年度と同数の入学者を確保することができました。しかし、未だ定員（30名）の確保には至っていませんので、次年度は地下鉄広告の実施等も含め、戦略的な募集活動を計画・立案します。

②教育の充実

令和5年度は6月より昼間部教員7名のうち、2名が産休・育休に入りました。産休代替を2名募集するも応募がなく、教務事務に採用を切り替えてようやく1名のみ確保することが出来ました。また、夜間部教員は1名退職し、1名新規採用となりました。夜間部教員については人材の確保が非常に難しく、募集を出していてもリアクションがない状態が続いています。昼間部・夜間部ともに教員経験年数が少ない教員も多くマンパワー不足は続いています。次年度以降も引き続き昼間部・夜間部を超えて教員同士が協力する体制で教育を行っていきます。

令和5年度も、例年と同様に教育の質を向上させるため、「学習到達度の低い学生に対する少人数学習」を実施しました。昼間部2年生には4～8月の臨床実習前の期間で週2回程度、また昼間部3年生は臨床実習中であるため、週1回の帰校日に校長と担任が少人数学習を実施しました。その結果、昼間部2年生では1年次のGPAよりも上昇がみられた学生もいました。昼間部3年生は学習到達度の低い学生も無事に全員合格することができました。今後も校長や担任をはじめとした教員全体で協力し、学習習慣を身に付けさせるためにも継続していききたいと思います。

また近年の傾向として精神的な不調や不安感を訴える学生も多く、退学者が出ないように精神面でもフォローしていききたいと思います。

③国家試験対策の充実

今年度の国家試験は昼間部49名、夜間部13名が受験し、全員合格することが出来ました。なお、今回の国家試験の全国合格率（新卒）は95.1%でした。

本校の国家試験対策は例年と同様、校長と専任教員による全教科の国家試験対策を行うとともに、複数回の模擬試験を実施しましたが、昼間部3年生は例年と比較しても基礎学力の低い学生が非常に多く、模擬試験の点数も伸び悩みが見られました。

マンパワー不足の環境ではありましたが、学習到達度の低い学生に対して早期から少人数学習を行い、担任をはじめとして昼間部・夜間部の教員が協力して、1月から毎週土・日・祝日に交替で指導にあたりました。昼夜の枠を超えてたくさんの教員が国試対策に関わることで、知識の取りこぼしがない様にフォローすることができたように思います。

また12月頃には点数の伸び悩みが見られる学生の保護者に連絡して、家庭学習の環境を整えてもらうよう協力を依頼しました。夜間部の学生についても勤務日数のセーブなど勤務先に相談するよう促しましたが、勤務先によってはなかなか協力が得られず苦慮している学生もおりました。

在校生に対しては、日頃の授業の重要性や取り組み方についての指導を行い、欠席の多い学生、成績に伸び悩みが見られる学生に対しては、早期から保護者に連絡をして学生の状況を理解してもらい、学習に集中できる環境づくりに協力してもらいたいと思います。

④就職支援の充実

今年度の就職希望者に関しては殆どが年内で内定しましたが、学力に不安のある昼間部3名は国家試験勉強に集中させるため、試験後に就職活動を行って全員内定となりました。昼間部については例年通り、臨床実習先での就職を希望する者が最も多く、夜間部については現在の勤務先に歯科衛生士として引き続き採用してもらう学生が多かったです。

歯科医院からは慢性的に求人の問い合わせが多く、全国的に歯科衛生士が充足していない状況が窺えます。新卒生のみならず、既卒生とも学校が窓口となって様々な分野で活躍できるよう、今後もより良い就職活動支援を行っていききたいと思います。

⑤施設設備の整備

令和5年度は以下の施設設備の整備を行いました。

1) 実習室の整備

①2階実習室のマネキン実習設備の整備

- ②3階実習室のユニット整備
- ③3階実習室のユニット用機器（ハンドピース・バキューム等）
- ④実習用機器（エアフロー、ルーペ等）

- 2) オルフィス、複合機の入替
- 3) 1階職員室 電話機の交換
- 4) ALSOK（警備システム）の更新
- 5) 1階職員室・壁面修理工事
- 6) 1階職員室・玄関電気錠（オートロック）制御盤交換
- 7) エアコン室外機の修理交換・室内機の故障個所の修理
- 8) 教室用プロジェクターの購入
- 9) 1階職員室のルーターの交換
- 10) 教職員用PC3台（毎年の定期更新）
- 11) ロードヒーティングの検査

→このままでは使用不可・修理費用高額のため、除雪排雪を業者にシーズン契約

開校から17年が経過し、校舎・備品等に経年劣化が見られる箇所が増えてきていますので、その他の施設設備については次年度以降に順次整備を行っていく予定です。

◆ 北海道看護専門学校

①入学者の確保

令和6年度の入学生は、77名（定員80名、定員充足率96.3%）であり、前年度（76名）に続き80名の定員を割る結果となりました。看護学校を取り巻く環境においては、18歳人口の減少や看護大学の台頭などから、高校生の進路選択に大きな影響を与える変化が起こっており学生募集は厳しい状況となっています。高校生・社会人別入学者数においても、高校生38名、社会人39名と高校生と社会人の割合が半数となり、高校生の入学者数の減少が顕著となりました。

入学者の確保には、学校の教育の質を高め在校生および卒業生から評価されることが最も基本であると捉え、特に国家試験の合格率100%となるよう教員が一丸となって取り組むことが重要であると考えます。また、学校が直接的に看護師を目指す学生に本校を知ってもらう機会として重要なオープンキャンパス、入試説明会の充実を今年度も図りました。オープンキャンパスでは、在校生が中心となって学校案内や懇談会、看護体験など開催し、アンケート結果も相応に評価の高い結果となりました。

社会人については、専門実践教育訓練給付金制度が利用可能なこと等の周知活動もあり、入学者数の確保に繋がっていると考えます。

大学志向の傾向はあるものの学生確保に向け、専門学校の特色を活かした差別化を図り、札幌市内の重点校を精査し高校訪問を増やし強化を図ります。また、学生数の増加傾向にある社会人入学の学生確保に向けて実習病院等への案内など広報活動の強化を図り、積極的な募集活動を行っていきます。

②教育の充実

今年度は新カリキュラム改定に沿った学習指導が2年目となり、コミュニケーション能力の向上や倫理に基づく看護実践能力を養うことができるような教育課程を編成し実践しました。コミュニケーション能力の向上として、基礎看護学方法論（1年次前期）では看護におけるコミュニケーションに焦点を当てた演習の充実が図れ、看護の「気づき」を日常生活援助に繋げられることができたと考えます。また、看護倫理（2年次前期）では、看護実践の場での倫理的ジレンマについて認知

し、看護職としての基本的姿勢や役割について事例検討などから学習することで、倫理に関する基礎的な知識と、問題解決の方法や考え方を学習することができたと考えています。臨床現場で起こる倫理的問題に対応する時、どのように考えればよいのか、何を大事にするのか、状況を整理し解決の方向を探る知識や考え方として活かされよう継続していきたいと考えます。

1年次の学生においては、学習方法が分からない学生や学習習慣が身につけていない学生を対象に、週1～2回のペースで放課後の時間を使った少人数学習支援体制を整えました。担任が中心となり教員全体で協力しながら個別の学習指導を実施したことで、成績向上の一助となっており、今後も継続して実施したいと考えます。また、再試験者が多い科目についても校長による振り返り学習を実施することで、学びを深めることができたと考えています。

シミュレーション教育の推進としては、外部より模擬患者(SP)を活用した学内演習も定着しており、演習では学内であってもより実践的でリアルな演習となり、演習終了後は学生だけでなく、模擬患者にも参加してもらい一緒にリフレクションを行い、学生たちにとって自らの看護を振り返る機会となっています。今後も模擬患者を活用し、効果的な演習を実施していきたいと考えています。

臨地実習では専任の教員はもとより、実習インストラクター(実習指導教員)と実習施設側の指導者の教育力が重要となるため、実習施設側との更なる連携に努め、教育力の向上を図りました。臨地実習や日々の学習上の課題によって学びを深める一方、学業継続が困難となってしまう学生からの相談も増加傾向にあり、担任や教務部長が面談、必要時、保護者も交えて面談を実施しており、教育的な支援者としてどのように介入が必要か具体的な検討を教員全体で深める必要があると考えています。

③国家試験対策の充実

今年度の国家試験は、75名中、合格者61名と合格率81.3%という結果になりました。内訳として、新卒者名71名中58名の合格で新卒合格率81.7%、既卒者4名中3名が合格し合格率75%となりました。国家試験担当教員が中心となって担任等と指導してきましたが、過去の結果と比べても最も低い合格率であり、効果的な教育が不十分であったと言わざるを得ません。

国家試験対策としては、担当者が中心となって解剖学、病態治療学に加えて、社会保障制度などの特別講義を実施したりするなど知識の定着に努めていましたが、学習到達度の低い学生に対してのサポートが十分ではなかったと考えます。

国家試験対策については、低学年からの学習を促すため、1年次には基礎的知識の定着、2年次からは意図的に授業の中で国家試験関連問題を解かせ、知識の定着に努める必要があります。3年次では、模擬試験結果を分析し、成績不良者には個人指導を継続的に実施し、教員全員が一丸となって取り組むことこそが重要であると改めて痛感しています。国家試験全員合格を目指し、教員は重層的に関わりながら知識の取りこぼしがないように進めていく必要があります。また、保護者にも学習支援への協力を依頼し、学習に集中できる環境を調整してもらうように働きかけることも必要と考えています。

④就職支援の充実

今年度も就職率は100%となりました。就職状況としては昨年と同様に札幌市内への就職を希望する学生が増加傾向にあります。なかでも実習病院への就職が約6割を占め、特に卒業生の定着率が高い病院への就職を希望している学生が多い傾向となっています。キャリア支援において、1年次から就活スケジュールなど具体的なイメージをさせながら、自分に合った病院選びができるように「自己分析」「目標設定」「病院比較」など個別対応を行うことで、第1志望の病院への就職率も高くなり、学生としての満足度は向上したと考えています。各病院の採用試験も年々早い時期に行われる傾向でもあるため、3月の春休みには病院見学やインターシップに行けるように指導を行いました。

学生が国家試験に万全の体制で挑むためにも、9月～10月までには就職活動を終わらせて、試験に

集中できるよう、今後もより良い就職支援を行っていきたいと考えています。

⑤施設設備の整備

令和5年度も、「学習環境の向上」、「業務の効率化」、「経年劣化対応」および「定期整備」を基本に以下の整備を行いました。

1. 学生の学習環境向上に資する整備

- ① Wi-Fi 環境保持のため、高稼働による性能劣化が著しい図書室および各種教室の無線 LAN ルーター計4個の交換

2. 教職員の業務効率向上に資する整備

- ① 教員用タブレット端末を電子教科書導入に合わせ4年連続で整備、今年度は2台購入
- ② 事務職員パソコン3台の入替更新
- ③ 学生管理システムに出欠席管理機能を付加

3. 経年劣化に対応した整備

- ① 実習室用熱交換型給湯設備の室外機における給湯配管の修繕
- ② 自動火災報知器の非常用バッテリーの交換
- ③ 避難誘導灯全37か所のランプ交換
- ④ 実習室電動昇降スクリーンの亀裂・剥離によりスクリーンの交換
- ⑤ 女子ロッカー室および教職員女性トイレ各1か所の手洗器自動水栓の修理交換
- ⑥ 非常勤講師控えゾーンの LED 天井照明ランプ交換

4. 定期整備

- ① 消防法に基づき校内17か所の消火器のリサイクル交換
- ② 空気調和設備室内機器のフィルター（全63か所）清掃

3 理事会・評議員会の開催状況

◆ 理事会

(令和5年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和5年5月27日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和4年度事業報告書(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 令和4年度決算(案)について
令和5年9月18日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 保証人に関する規程(案)について 第2号議案：北海道看護専門学校の入学に関する規程の改正案について 第3号議案：北海道歯科衛生士専門学校の学則変更(案)について 第4号議案：北海道歯科衛生士専門学校の実習施設の変更(案)について
令和5年12月7日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 就業規則の変更(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 給与規程の変更(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 育児・介護休業等に関する規則の変更(案)について 第4号議案：北海道看護専門学校の実習施設の変更(追加)(案)について
令和6年1月26日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和5年度補正予算(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 育児・介護休業等に関する規則の変更(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 非常勤者等就業規則の変更(案)について 第4号議案：学校法人札幌青葉学園の教職員における時間外勤務に関する細則(案)について 第5号議案：北海道看護専門学校 時間外勤務細則(案)について 第6号議案：北海道看護専門学校の実習施設の変更(追加)(案)について
令和6年3月23日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和6年度事業計画(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 令和6年度予算(案)について 第3号議案：北海道歯科衛生士専門学校の実習施設の変更(案)について

◆ 評議員会

(令和5年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和5年5月27日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和4年度事業報告書(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 令和4年度決算(案)について
令和6年1月26日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和5年度補正予算(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 育児・介護休業等に関する規則の変更(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 非常勤者等就業規則の変更(案)について 第4号議案：学校法人札幌青葉学園の教職員における時間外勤務に関する細則(案)について 第5号議案：北海道看護専門学校 時間外勤務細則(案)について 第6号議案：北海道看護専門学校の実習施設の変更(追加)(案)について
令和6年3月23日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和6年度事業計画(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 令和6年度予算(案)について 第3号議案：北海道歯科衛生士専門学校の実習施設の変更(案)について

4 取得可能な称号

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復学科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸学科	専門士（医療専門課程）

（注）柔道整復師科では柔道整復師、鍼灸師科では、はり師・きゅう師の国家試験受験資格を取得可能。

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	歯科衛生士学科	専門士（医療専門課程）

（注）歯科衛生士学科では、歯科衛生士国家試験受験資格を取得可能。

◆ 北海道看護専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）

（注）看護学科では、看護師国家試験受験資格を取得可能。

5 学生生徒等納付金

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

（単位：円）

柔道整復学科・鍼灸学科	1年次	2年次	3年次
入学金	250,000	—	—
授業料	720,000	720,000	720,000
実習費	220,000	180,000	180,000
施設設備費	300,000	300,000	300,000
学友会費	40,000	—	—
合 計	1,530,000	1,200,000	1,200,000

（注）教科書・教材・白衣・柔道着（柔道整復学科のみ）・保険・学友会費等が別途必要となります。

（単位：円）

日本語学科（進学1年コース）	1年次
入学金	100,000
授業料	650,000
合 計	750,000

（単位：円）

日本語学科（進学1.5年コース）	1年次	2年次
入学金	100,000	—
授業料	325,000	650,000
合 計	425,000	650,000

(単位：円)

日本語学科 (進学2年コース)	1年次	2年次
入学金	100,000	—
授業料	650,000	650,000
合 計	750,000	650,000

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(単位：円)

歯科衛生士学科 (昼間部)	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	500,000	500,000	500,000
実習・管理費	140,000	140,000	140,000
施設・設備費	210,000	210,000	210,000
学友会費	30,000	—	—
合 計	1,080,000	850,000	850,000

(注) 教科書・教材・白衣・保険等 (3年間で250,000円程度) が別途必要となります。

(単位：円)

歯科衛生士学科 (夜間部)	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	400,000	400,000	400,000
実習・管理費	100,000	100,000	100,000
施設・設備費	200,000	200,000	200,000
学友会費	20,000	—	—
合 計	920,000	700,000	700,000

(注) 教科書・教材・白衣・保険等 (3年間で250,000円程度) が別途必要となります。

◆ 北海道看護専門学校

(単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	750,000	750,000	750,000
施設管理費	400,000	400,000	400,000
実習費	250,000	300,000	300,000
合 計	1,600,000	1,450,000	1,450,000

(注) 教科書、実習衣、健康診断料、学友会費、国家試験模擬試験費、同窓会費等が別途必要となります。

6 卒業及び就職等の状況

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

(令和6年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復学科 昼間部	26	18	0	6	2
鍼灸学科 昼間部	18	14	0	2	2
鍼灸学科 夜間部	10	10	0	0	0
合 計	54	42	0	8	4

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(令和6年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
歯科衛生士学科 昼間部	49	48	0	0	1
歯科衛生士学科 夜間部	13	12	0	0	1
合 計	62	60	0	0	2

◆ 北海道看護専門学校

(令和6年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	71	67	0	0	4

7 国家試験の受験状況

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

(令和5年度新規卒業生)

学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	26	25	96.2%	84.0%
はり師国家試験	28	27	96.4%	85.8%
きゅう師国家試験	28	27	96.4%	86.2%

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(令和5年度新規卒業生)

学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
歯科衛生士国家試験	62	62	100.0%	95.1%

◆ 北海道看護専門学校

(令和5年度新規卒業生)

学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	71	58	81.7%	93.2%

Ⅲ. 財務の概要

1 学校法人会計基準

◆ 学校法人とは

学校法人とは、私立学校の設置を目的として、私立学校法の定めるところにより設立される法人をいいます（私立学校法第3条）。学校法人は、学校法人会計基準で定めるところに従って会計処理を行い、計算書類を作成しなければならないとされています。

◆ 学校法人会計基準の特徴

学校法人は、一般の企業のように利益の追求を目的とするものではありません。学校法人は、教育研究活動を目的としていますが、収入と支出のバランスが取れなければ学校運営を維持することはできません。そのため、学校法人会計の目的は、設置運営する大学等の永続的維持、発展と教育研究活動の円滑な遂行です。同時に、経常費補助金に係る予算の適切な執行が求められます。

学校法人の収入の大半は、自由に増額することが困難な学生生徒等納付金です。また、教育研究活動の維持発展のための支出を削減することが難しい点があります。そこで、学校法人の経営状況及び財政状態を的確に把握するため、学校法人会計基準に基づき計算書類を作成する必要があります。

◆ 学校法人会計と企業会計の違い

企業が利益の追求を目的としているのに対し、学校法人は教育研究活動を目的としています。企業会計が計算書類からその経営成績を知ることが目的であるのに対し、学校法人会計は計算書類によって安定的、継続的に教育研究活動が行われているか否かを知ることが目的です。

学校法人の事業は、基本的に非営利事業です。そのため、収益事業を目的とした一般事業会社のように利益を得ることが目的とはなっていないことから、一定の制限の下に認められる収益事業を除き、企業会計における損益計算は適用されません。

2 各科目の説明

◆ 資金収支計算書の科目（収入の部）

科 目	説 明
学生生徒等納付金収入	教育研究活動の対価としての性質を有し、在学条件として義務的かつ一律に納付させる授業料、実験実習料や、学生生徒等を就学させるに当たって義務的かつ一律に納付させる入学金など。
手数料収入	特定の用役の提供に当たって受益者から徴収する手数料。入学検定料、試験料、証明手数料収入など。
寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、補助金収入とならないもの。
補助金収入	国又は地方公共団体から交付される助成金。日本私立学校振興・共済事業団やこれに準ずる団体からの助成金を含む。

資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却収入。不動産売却収入、有価証券売却収入など。
付随事業・収益事業収入	補助活動収入（食堂、売店、寄宿舍等教育活動に付随する活動に係る事業の収入）、附属事業収入（附属機関（病院、農場、研究所等）の事業の収入）、受託事業収入（外部から委託を受けた試験、研究等による収入）、収益事業収入（収益事業会計からの収入）など。
受取利息・配当金収入	第3号基本金引当特定資産運用収入（第3号基本金引当特定資産の運用により生じる収入）、その他の受取利息・配当金収入（預金、貸付金等の利息、株式の配当金等。第3号基本金引当特定資産運用収入を除く）など。
雑収入	学生生徒等納付金収入から事業収入までの各収入に含まれない収入で、固定資産に含まれない物品の売却収入その他学校法人に帰属する収入。
借入金等収入	金融機関等から借り入れた資金。
前受金収入	翌会計年度以後の諸活動に対応する収入を当該会計年度において資金収入したもの。
その他の収入	学生生徒等納付金収入から前受金収入までの各収入科目に含まれない収入。積み立ててきた特定資産から繰り入れた収入や、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入など。
資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入のうち、資金の収入が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる収入項目に対応する勘定。
前年度繰越支払資金	前年度から繰り越した支払資金。

◆ 資金収支計算書の科目（支出の部）

科 目	説 明
人件費支出	教職員等に支給する人件費。教員人件費支出、職員人件費支出、役員報酬支出、退職金支出など。
教育研究経費支出	教育研究のために支出する経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
管理経費支出	教育研究経費以外の経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
借入金等利息支出	借入金及び学校債に係る利息支出。
借入金等返済支出	借入金及び学校債に係る返済支出。
施設関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する土地、建物、構築物、建設仮勘定等、固定して設置する固定資産に係る支出。
設備関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書、車輛等の設備又は電話加入権等の設備の利用に係る権利に係る支出。
資産運用支出	学校法人の資産運用目的による資金支出。

その他の支出	人件費支出から資産運用支出までの各科目に含まれない支出。当年度内に支払義務が確定しているが、年度末に未払いとなったもの（期末未払金）や、当年度に属する経費を前年度以前に前払いしたもの（前期末未払金）など。
資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対応する支出のうち、資金の支出が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる支出項目に対応する勘定。
次年度繰越支払資金	翌年度へ繰り越される支払資金。

◆ 事業活動収支計算書の科目

科 目	説 明
その他の教育活動外収入	収益事業収入、外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差益）など、教育研究活動以外の収入。
その他の教育活動外支出	外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差損）など、教育研究活動以外の支出。
その他の特別収入	施設設備寄付金、現物寄付、施設設備補助金、過年度修正額。
資産売却差額	学校が持つ不動産、有価証券等の資産を売却した際に生じる売却益。その他、有価証券の時価の著しい下落による有価証券評価損（有価証券評価差額）、有姿除却を行った場合の有姿除却等損失を含む。
その他の特別支出	災害損失、退職給付引当金特別繰入額、デリバティブ取引の解約損。
事業活動収入	学生生徒等納付金や補助金など学校法人の負債とされない収入。従来の「帰属収入」。企業会計の「収益」に当たる。
事業活動支出	年度内で消費する資産の取得価額（減価償却額など）と用役の対価として支出した額（人件費や経費支出など）。従来の「消費支出」。企業会計の「費用」に当たる。

本学園の財政運営に当たっては、経営の安定を図るとともに、健全な学園運営を行うために、学生生徒等納付金などの収入の確保と支出の削減を図り、経営の合理化・効率化に努めているところです。

本学園の令和5年度の決算は、以下のようになりました。

◆ 事業活動収支計算書の予算対比について

(1) 経常収支差額：23,730千円の増

<p>① 教育活動収支の収入：1,497千円の増 <内訳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生徒等納付金：1,532千円の増 ・手数料：1,053千円の増 ・寄付金収入：0千円の増 ・経常費等補助金：1,299千円の減 ・付随事業収入：0千円 ・雑収：211千円の増 	<p>③教育活動収支の支出：22,087千円の減 <内訳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費：1,817千円の減 ・教育研究経費：12,773千円の減 ・管理経費：7,497千円の減 ・徴収不能額：0千円
<p>② 教育活動外の収入：84千円の増</p>	<p>④教育活動外の支出：62千円の減</p>

(2) 特別収支の収入支出：765千円の減

(3) 基本金組入前当年度収支差額：22,965千円の増

◆ 事業活動収支計算書の前年度対比について

(1) 経常収支差額：7,278千円の減

<p>① 教育活動収支の収入：17,277千円の増 <内訳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生徒等納付金：9,651千円の増 ・手数料：226千円の増 ・寄付金収入：0千円の増 ・経常費等補助金：6,581千円の増 ・付随事業収入：0千円 ・雑収入：819千円の増 	<p>③教育活動収支の支出：25,537千円の増 <内訳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費：23,974千円の増 ・教育研究経費：6,805千円の増 ・管理経費：5,242千円の減 ・徴収不能額：0千円
<p>② 教育活動外の収入：1,658千円の減</p>	<p>④教育活動外の支出：2,640千円の減</p>

(2) 特別収支の収入支出：765千円の減

(3) 基本金組入前当年度収支差額：8,043千円の減

(単位：千円)

		科 目	令和5年度
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	814,233
		手数料	6,353
		寄付金	0
		経常費等補助金	76,640
		付随事業収入	0
		雑収入	1,262
		教育活動収入計	898,488
	支出の部	人件費	540,443
		教育研究経費	236,437
		管理経費	68,533
徴収不能額等		0	
教育活動支出計		845,414	
教育活動収支差額		53,074	
教育活動外収支	科 目		令和5年度
	収入の部	受取利息・配当金	94
		雑収入	0
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動収入計	94
	支出の部	借入金等利息	20,638
		その他の教育活動外支出	1,100
		教育活動外支出計	21,738
教育活動外収支差額		△21,644	
経常収支差額		31,430	
特別収支	科 目		令和5年度
	収入の部	資産売却差額	648
		その他の特別収入	0
		特別収入計	648
	支出の部	資産処分差額	1,413
		その他の特別支出	0
		特別支出計	1,413
特別収支差額		△765	
科 目		令和5年度	
【予備費】			
基本金組入前当年度収支差額		30,665	

5 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		
科 目	本年度末	前年度末
固定資産	1,681,647	1,885,033
有形固定資産	1,654,487	1,682,925
その他の固定資産	27,160	202,108
流動資産	441,576	265,420
資産の部合計	2,123,222	2,150,453
負債の部		
科 目	本年度末	前年度末
固定負債	1,293,528	1,345,820
流動負債	662,717	668,321
負債の部合計	1,956,245	2,014,141
純資産の部		
科 目	本年度末	前年度末
基本金	1,830,830	1,788,213
繰越収支差額	△1,663,853	△1,651,901
純資産の部合計	166,977	136,312
負債及び純資産の部合計	2,123,222	2,150,453

6 財産目録

(単位：千円)

科 目	令和5年度末	
1 資産総額	2,123,222	
(1) 基本財産	1,681,646	
1 土 地	1,974.27m ²	447,922
札幌青葉鍼灸柔整専門学校校舎校地	1,080.95m ²	159,193
北海道看護専門学校校舎校地	893.32m ²	288,729
2 建 物	9,189.90m ²	1,135,501
札幌青葉鍼灸柔整専門学校校舎	3,466.64m ²	426,757
北海道歯科衛生士専門学校校舎	2,151.71m ²	251,673
北海道看護専門学校校舎	3,571.55m ²	457,071
3 借地権北海道歯科衛生士専門学校校舎	1,097.86m ²	25,200
4 図 書	一式	35,613
5 教育研究用機器備品	一式	30,519
6 管理用機器備品	一式	4,283
7 車 輛		648
8 ソフトウェア		1,904
9 出資金		20
10 敷金		36
(2) 運用財産	441,576	
1 現預金	434,211	
2 未収入金	2,925	
3 前払金	4,321	
4 仮払金	119	
2 負債総額	1,956,245	
1 長期借入金	1,201,720	
2 長期未払金	31,917	
3 退職給与引当金	59,892	
4 短期借入金	57,840	
5 前受金	549,689	
6 預り金	27,475	
7 未払金	27,712	